

# われもこつ 第31号

2011年7月27日 発行

●道端の花

キツリフネ (ツリフネソウ科)



山のすそや小川のそばなど湿り気の多い所に生える一年草で、七月〜九月に鮮やかな黄色の花を咲かせる。

果実は熟すと果皮が裂けてクルクルと巻き、中の種子をはじき飛ばす。

## 「本来の日本文化の再興を」

軽井沢町長 藤巻 進 ..... p.2

軽井沢の樹木 —イチイ— .....p.4

地域通貨新展開! さよなら、われも券 .....p.5

東日本大震災現地への訪問記 .....p.6

# 本来の日本文化の再興を

軽井沢町長 藤巻 進

道端に咲く小さな草花から多くの事を学びます。「われもこの会」は小さな活動ですが、この小さな活動が私たちの生命や生活のあり方を教えてくれます。

人間社会は開発の名の下に自然をことごとく破壊してきました。文明の歴史はイコール自然破壊の歴史でもあります。しかし、大自然だけでは人間が住むことができないということも事実です。文明は人間社会に大き

な幸福をもたらしてきましたが、近年そのほころびが見えてきて、問題がクローズアップされてきています。

「開発」は英文で development と訳されますが、開発のほかに「発展」、「成長」、「発達」の意味があります。四季があり、湿潤で山紫水明の日本に限って言う限り、開発は経済の発展、成長、発達ではあっても、自然環境の発展、成長、発達はなつてきていませんでした。

観光においても同様で、観光開発は美しい野山を削り、無機質なコンクリートに変えてきました。そこには生命の循環も断ち切られてしまっているのが現状です。

さて、その破壊行為を行ってきたのは開発業者だけなのでしようか？そうではないはずで、それは自分自身であり、私たちも加害者なのです。とかく、自然保護の訴えは耳障りよく美化されて受け止められがちですが、そう簡単に加害者、被



害者が明確にできるものではありません。私たちは生活の利便性や所得向上と引き換えに、自然を犠牲にしてきたのです。かくいう私も開発の恩恵を享受してきた一人であり、破壊に手を貸してきた一人であるからです。誰もが加害者でもあり被害者でもあるということを認識する必要があります。

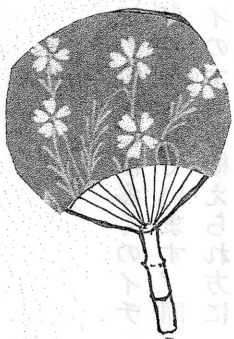
では、それらをどのようなように是正していけばよいのでしょうか。それは前記のとおり、開発を自然の視点からも、発展、成長、発達に変えていくことです。自然の保全にしても原資が

たところで、理念だけを振りかざしても何も進みません。やっとならぬとこにきて、土木工事に自然工法を取り入れたり、観光においてもエコツーリズムが活発になるなど、好ましい状況が生まれてつあります。これらを、さらに促進していく必要があります。

このたびの東日本大震災に対して、世界各国から日本人の助け合い精神やマナーなどへの称賛の言葉が寄せられています。日本社会では当たり前が、世界の人々にとっては驚きとして受け取られています。同様に自然と一体化して住むという日本

文化も、私たちが誇る伝統文化でありライフスタイルなので

す。  
自然は征服するものとした欧米的な考えではなく、自然に沿って生きるなどは鴨長明の『方丈記』などにも著されていますが、その自然に沿った日本文化をこれからはもつと意識して、ものごとを進めていくことが大切であると考えます。路傍に咲く小さな命の声にも、耳を傾けられる一人でありたいと思っています。



# 軽井沢の樹木 — イチイ —

星野裕一

イチイ、アララギ、スタオノキ、オンコ（アイヌ語）等と呼び方はさまざま。

昭和五十四年、佐藤邦雄先生がまとめられた『軽井沢の文化財—巨樹・古木・並木・社叢—』が軽井沢町教育委員会から出版されました。

イチイ（アララギ） 方言トガ（イチイ科）の項より抜粋致しします。

各地の深山にはえているが、近年人家に多く栽植されている。常緑の高木で幹は直立している。樹皮は赤褐色を帯び浅い裂



目が入っている。葉は深緑色で細長く、枝の左右にぎょうしりと二列に羽状に開いている。雌雄異株で仮種皮は多肉質で熟すと紅色になり、甘く生食することができ。種子は有毒である。

軽井沢生まれの私はどうしてもイチイを「トガ」と呼んでしまう癖がありますが、この地方でどうしてそう呼ぶのか、理由は判りません。一般的にはトガはツガの別名であるようです。

軽井沢の町内には多くのイチイの木が植えられています。同じイチイの木でも植えられ方に二つの方法があり、木の形には大きく分けて二種類あることに気が付くでしょう。まず種を土にまいたり、自然に芽がでたもの。まつすぐ上へ伸び一五〜二〇メートルくらいになります。他方、人の手によって挿し木をして成長させたもの。後者は庭園木としてさまざまな形にかたどられて人目をひく事も多くあります。

先日久しぶりに熊野神社へ行く機会がありました。表参道を登りきった両脇にはイチイの木が迎えてくれました。熊野神社というトガノキが余りにも有名ですが、この樹齢六〇〇年ともいわれるイチイの木もなかなか立派です。

庭園木としても主木としても良く用いられると共に、床柱、器具材としても大変広く利用されま

す。また、古くから高貴な人が持つ物として「笏（しゃく）」という物があり、大変大切なものとされています。この「笏」にイチイが用いられています。余談ですが、

一説には「笏」が日本の古くからの長さの単位となる「尺」につながる元となっているそうです。

別荘地として

軽井沢は多くの樹木と共に生活をしてきました。古い別荘には、浅間山麓の標高二〇〇〇メートル付近から持ち帰ったシラビソがあっ



しゃく 笏

## 軽井沢町に地域通貨「ルイザ」が誕生！

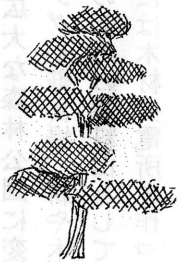
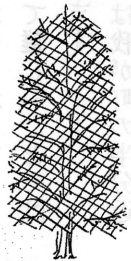
今年度4月より軽井沢町社会福祉協議会と軽井沢サービス連盟会・中軽井沢商店サービス会・軽井沢町商工会が運営する地域通貨「ルイザ」の発行が始まりました。

お買い物や雪かきなど日常生活のちょっとした困りごとをご近所同士で助け合う「安心ほっと生活サポート」事業の要として、さらに地元商店街の活性化につながる地域通貨として発展していくことが期待されます。

私たちわれもこの会も運営協力会員となり、「ルイザ」の使用を始めました。10年間運営してきた「われも券」の発行は昨年度で終了（愛着はありますが）。

地域通貨の活動を支え続けて下さった「われも」協力店の皆様には心より感謝申し上げます。「ルイザ」を通してまたお世話になりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

たり、隣地境に目隠し用に植えたモミの仲間の数々。今やモミの間はひたすら光を求めて天を目ざしています。家の周りに植える木としてもう一度イチイの木をもっと再評価して植えてみてはどうでしょう。



## 東日本大震災現地への訪問記

江川良武

ナラの若林、炭焼小屋、燃料のための芝刈り、牧草のための野焼き、かやぶき屋根のための茅場、そして美しい野の花々・・・、かつての里山の風景です。私にとつての里山の記憶は、陸前高田から少し入った山でした。そう、あの岩手県で最大の被害を出した陸前高田です。若い頃、調査のために夢中で歩き回った所です。震災の四〇日後に、震災・復旧の状況と、かつての里山がどうなっているかを知りたく、そして行った以上は、少しはお役に立たねばと夫婦で四日のボランティア活動をしてきました。当然、野宿ですが、車中泊の常習犯ですので私たちに

とつては何でもないのです。

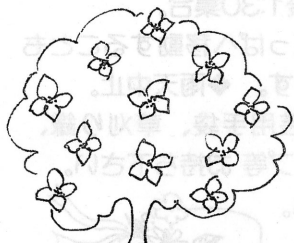
案の定、それほどお役に立つた訳ではありません。「人を助ける」は容易なことではないのです。でも現地の方々から喜ばれたことは確かなように思います。口々に感謝の言葉をいただきましたし、偶々入った居酒屋では、料金を負けてくれました。

かつての「里山」はいずれも同じ、汚い灌木や暗い杉の林になっていました。そして、いろりや薪ストーブは消え、その後に置き換わった石油やプロパンは、道路の途絶などで手に入らず皆さん寒い思いをしたわけです。

それにしてもこの日本で一週間、いや十日以上も食べ物が無い、など震災以前に一体誰が予想したでしょうか。軽井沢にとっても人ごとではありません。東京直下地震や東海地震が発生すれば、

物流機能が失われ、食料やエネルギー、それに電気によって供給される水道まで長期にわたって途絶するであろうことは容易に予想できます。軽井沢は全ての物資を他の地方に委ねているだけに、そして確氷峠という、一旦トラブルが発生すれば復旧は容易でない交通の難所を抱えているだけに大変なことが予想されます。今後は物流に一〇〇%依存するのではなく、地元で食料は勿論、エネルギーを調達する工夫が求められるでしょう。これは決して難しいことではないように思います。

浅間山の麓には我が町の半分近くの面積を占める国有林が、ほとんど使うことなく残されています。これを広大な森林公園に変え、ハイキングや野営場、薪や木質ペレットのための燃料山として利用、さらには木材発電所を作っ



てはどうでしょう。森林公園の維持は主に専門の方に担っていたがかねばなりません。町民や首都圏からボランティアも係わるようにすれば、森林セラピーや新たなエコツーリズムの場ともなります。

里山とは簡単に言えば薪や炭を採る山のことですから、これはかつての里山の再生そのものです。これが実現すれば、私たち「われもここの会」が願う美しい野草と、雑木林も戻ってくることでしよう。

◆◆◆蕎麦づくり◆庭づくり◆花づくり◆◆◆

私は、蕎麦が好きで暇があれば食べ歩いています。先日、佐久と御代田のお蕎麦屋さんに行きました。

佐久の店では、いつもの窓越しに庭が見える席に座り、おすすめの“豚そば定食”を食べながら、綺麗に手入れされた小さな庭に気持ちが癒されました。たまたまその時、珍しい花が咲いていたので聞くと“雪餅草”と教えてもらいました。ここでは7～8月には、目の前にレンゲショウマが下向きに可憐に咲きます。そろそろ見頃を迎えたことでしょう。

御代田の店では、入口前の立派な紅更紗ドウダンツツジが迎えてくれました。

また、ヤマボウシも満開でした。いずれも若旦那の実家（南佐久）から持って来たとのこと。若い方ですが、落ち着いた雰囲気のお店です。この店は、蕎麦も旨いですが、“蕎麦掻きぜんざい”も絶品です。

両店とも、ご主人が若いですが丁寧な庭づくりで、そのため木も花も気持ち良く育っているようです。蕎麦づくりに通ずるものがあるのかも知れませんが、人柄がお店に表れているのですね。

それでは気になる店があるので、又食べ歩いてきま～す。



ユキモチリウ (サトイモ科) (つちー)

# 原っぱでボランティア!

われもこうの会 2011年夏から秋のスケジュール

日時 集合場所

8月 7日 (日) 発地の原っぱ

8月24日 (水) 前沢の原っぱ [西]

9月 4日 (日) 発地の原っぱ

9月14日 (水) 前沢の原っぱ [西]

10月 2日 (日) 発地の原っぱ

10月19日 (水) 前沢の原っぱ [西]

11月 6日 (日) 発地の原っぱ

◆ 午後1:30集合。  
別の原っぱへ移動することもあります。◆ 雨天中止。  
◆ 園芸用手袋、草刈り鎌、スコップ等 お持ち下さい。  
ださい。

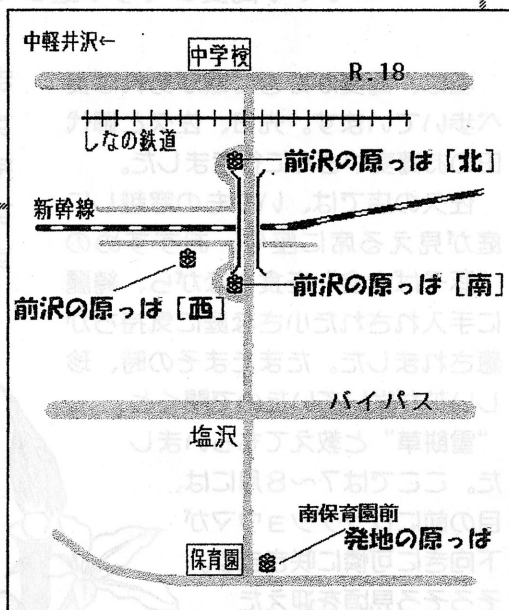


## 会員以外の方の参加も大歓迎!

秋は収穫した野の花の種を配布します。気軽にお立ち寄りください。

### \*\*\* 編集後記 \*\*\*

「われもこう」の発行のめどがたち、ちょっと気持ちに余裕ができたので、庭先の草むしりをしていたら、小さなピンク色の花が…。何年ぶりかで自生のネジバナに出会いました。でも葉っぱがぜんぜん無い! そういえば数週間前草刈機で刈り込んだっけ。それでも花を咲かせてくれたのは、編集に追われて最近草刈りどころじゃなかったおかげかな。(裕)



ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会

事務局 TEL・FAX/ 0267 (46) 2505